編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）　第 41 号　大阪市史料調査会（編集）

〒 550-0014 大阪市西区北堀江 4-3-2　大阪市立中央図書館内　TEL06-6539-3333

●中野操文庫が大阪市の指定文化財になりました

大阪市史編纂所には、寄贈された史料群がいくつかあります。そのうちの一つの中野操文庫が大阪市の指定文化財に指定されました。中野操文庫とはどういうものなのでしょうか。

オランダ語の文法書『セウユリルスフラーカコンスト』（上）。曲直瀬道三著の『医学天正記』（右下）と『黄素妙論』（左下）。

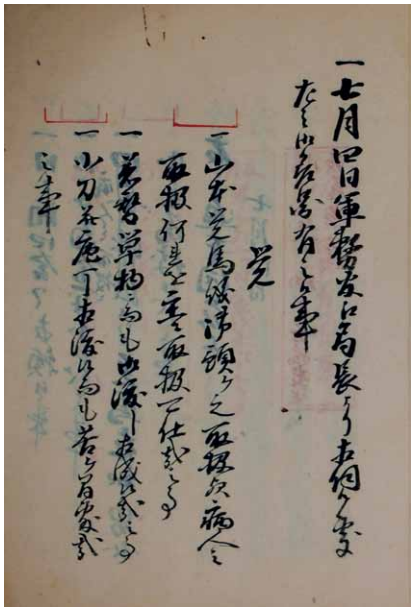
中野操文庫は、故中野操氏が収集所蔵した図書・史料等の総称です。中野操氏は医学博士で開業医でした。明治 30 年（1897）に京都府八木町（現南丹市）に生まれ、京都府立医学専門学校（現京都府立医大）を大正 9 年（1920）に卒業、その学位論文は癌研究の権威とされる山極賞を受賞しています。軍医として各地で勤務の後、大阪赤十字病院に奉職し、昭和 6 年（1931）に南区周防町（現中央区）で開業、のち阿倍野区晴明通に移りました。その一方で医療の歴史に関心を持ち、さまざまな文献・資料の収集をはじめました。そして、昭和 13 年に杏林温故会を組織し、機関誌として現在も続く医史学研究雑誌『医譚』を刊行しています。日本医史学の権威として知られ、昭和 43 年に日本医師会から多年医史学の発展に尽くした功績によって、最高優功賞を贈られています。昭和 55 年には大阪市の市民表彰も受けています。主な著書に、『大阪蘭学史話』『錦絵医学民俗志』『皇国医事年表』『大阪医師番付集成』などがあります。昭和 61 年に物故しましたが、その蔵書等が大阪市史編纂所に寄贈され、中野操文庫として保存されています。

全部で 1 万 3461 点の図書・史料等がありますが、主なものを幾つか紹介しましょう。

中野操文庫の中で有名なものの一つに、医師番付があります。『編纂所だより』の 40 号にもそのうちの一つが紹介されていましたが、大阪を中心としたコレクションで、江戸時代中期から明治にかけて、医者をランク付けして、相撲の番付のようにしたものです。また、収集されたもののなかに『医学天正記』というものがありますが、これは寛永 4 年（1627）のもので、著者は織田信長にも仕えたことのある曲直瀬道三（1507 ～ 1594）という有名な医者です。また、もっとも古いものも、曲直瀬道三が著した『黄素妙論』で、天文 12 年（1552）と記されています。道三という署名があるので、自筆の可能性もあります。

蘭学関係では、『セウユリルスフラーカコンスト』という写本があります。これはオランダ語の

文法の書物で、恐らく長崎のオランダ商館で筆写したものと思われます。もとのオランダの原本は1708年にオランダ人セウエルが刊行したもので、その第三版を写したものです。筆写したのは、「Liotoi」のサインがあることから、京都の医者で蘭学者の新宮涼庭（しんぐうりょうてい）であることは確実です。新宮涼庭（1787～1854）は、長崎に遊学し、オランダ商館長ドゥーフに認められて、商館付の医者に学んでいます。またドゥーフは、『蘭日辞書』（ドゥーフハルマ）を編纂したことでも知られていますが、そのころ新宮涼庭も長崎にいたので、文法書を筆写したものと推察されます。このドゥーフハルマの写本は、緒方洪庵が適塾に「ドゥーフ部屋」という辞書を置く部屋を作り、塾生がそこにきて学んだことでも有名な書物です。



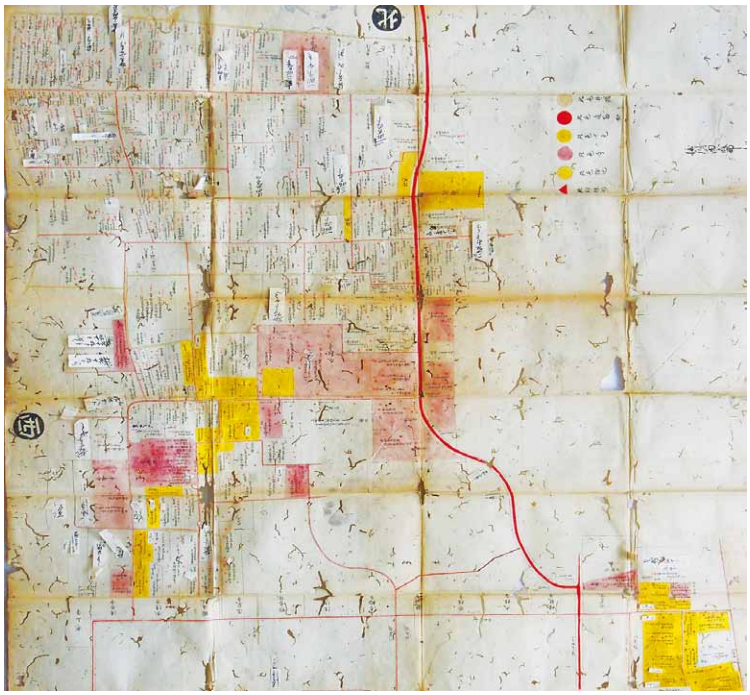
山本覚馬の取り扱いについて問い合わせた文書。（中野操文庫・青木家文書「諸届伺申立一件留」より）

明治時代の初め、大阪には大阪病院が作られ、そこにはオランダ人の医師ボードインが勤務し、治療を行う一方で医学を教えていました。後任のエルメレンスも同様に、オランダ医学を教えていたのですが、その講義内容は『日講記聞』として刊行されました。中野操文庫にはその『日講記聞』がそろっています。なお、エルメレンスは、大阪の人たちから非常に慕われて、その死が伝わったときに頌徳碑が作られたことは以前にご紹介しました（『編纂所だより』第26号、平成18年発行）。

このほか、京都の療病院関係の史料もあるのですが、そこには山本覚馬に関する史料も含まれています。このように中野操文庫はいろいろな貴重な史料が集められているので、大阪市の指定文化財に定められたのです。（堀田暁生）

●北野村のいまむかし

このたび「北野村絵図」を調査のためにお預りしました。現在の大阪には「北野」の地名が残っていないので、現在のどこにあたるのか、ご存じない方もいらっしゃるのではないでしょうか。



絵図中央の薄桃色の区画が太融寺。（「北野村絵図」より）

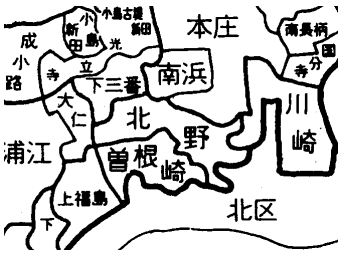
江戸時代の北野村は、大坂三郷の北に隣接した村で、現在の梅田付近にあたり、太融寺（たいゆうじ）や商店街、雑居ビルが建ち並ぶ繁華街が、かつての村の中心になります。

村の様子を知るために、絵図を見てみましょう。絵図には、村の道筋や井路、神社やお寺、年貢を免除された除地などが彩色されています。図のほぼ中央に太融寺が、南東には堀川戎神社（ほりかわえびすじんじゃ）や天満堀川が見えます。また、南北に通る街道沿いに「氏神」とあるのは、綱敷天神社（つなしきてんじんしゃ）でしょう。さらに詳しく見ると、それぞれに地番と畑や屋敷地の面積、分米、名請人の名前が記されていることがわかります。家屋敷

を表す「棟形」も▲印で示されていますが、棟形が多く、ざっと数えても 470 軒にのぼります。北野村は、「村」であるにも関わらず、このように家数が多いのはなぜでしょうか。

江戸時代には、北野村のように大坂三郷に隣接し、町場化した地域を「町続在領（まちつづきざいりょう）」と呼んでいました。大坂の都市部にあたる三郷の人口は、1700 年代半ばには 40 万人を超えます。この増加した人口を受け入れる形で、町続きの村に建家が見られるようになったのです。北野村の場合も、天明元年（1781）には「町続在領」と認識されていたことが史料からわかっていますので、江戸時代後期に作成されたこの絵図には、たくさんの棟形が見られるのです。

太融寺近辺の様子。「北野村絵図」部分。



明治 22 年の行政区画図より。（『大阪府史』第 7 巻付図を加工。）

しかし、このように町場化したのは、三郷に隣接していた北野村の東部地域だけです。このことから、今回紹介した「北野村絵図」は、村の全図ではなく、東部のみを描いた図であることが分かります。それでは、この絵図に描かれていない村の西部はどのようになっていたのでしょうか。

北野村の西部は、東部とは対照的に、田んぼと畑がひろがる田園地帯でした。その西部も、現在は都市開発のまっただ中にあります。グランフロント大阪をはじめ、近年、梅田界隈では、高層ビルや商業施設の再開発が進んでいます。こういった地域が、かつての北野村西部にあたるのです。

梅田の発展は、明治 7 年（1874）に梅田停車場（現 JR 大阪駅）が誕生したことに始まります。その後も、明治 38 年（1905）に阪神電気鉄道が、明治 43 年（1910）には箕面有馬電気軌道（阪急電鉄の前身）が、いずれも梅田に終着駅を開設し、梅田は「大阪の玄関口」として賑わいを見せていきます。かつて田園が広がった北野村の西部も、こうして今の風景に近づいていったのです。

（内海寧子）

◆ 新刊のご案内

『大阪の歴史』第 80 号

大阪を代表する作家、織田作之助の生誕 100 周年を記念した特集号です。織田作之助の作品背景や「大大阪」時代の雰囲気が垣間見える論文集となっています。

７００円（本体）送料 160 円

【主な内容】

三島　佑一「織田作之助と大阪を考える」
高橋　俊郎「織田作之助の原風景」
宮川　康　「梶井基次郎・武田麟太郎・織田作之助」
小笠原　弘之「「織田文庫」書簡に見る昭和二十一年の織田作之助」

刊行物のお求め方法

大阪市史編纂所の刊行物は大阪市史料調査会で窓口・通信販売を行っています。また、下記の書店でお求めいただけます。詳しくは大阪市史料調査会（市立中央図書館３階市史編纂所内・電話 06-6539-3333）までお問い合わせください。

取り扱い書店：旭屋書店（天王寺ＭＩＯ店）、ジュンク堂書店（大阪本店・千日前店・難波店）、ミュージアムショップ文楽（大阪歴史博物館内）、紀伊國屋書店（梅田本店）

絵はがきでみる昔の大阪（１９）

大阪松島八千代座（昭和６年）

一見すると道頓堀の賑わいと見違えるようです。写真の右上に「（大阪）歓楽の巷、松島八千代座附近」とありますので、西区の松島にあった劇場です。千代崎橋を渡って花園橋まで通じる道路沿いにこの劇場はありました。大阪市立中央図書館の Web ギャラリーでもほぼ同じ位置からの別の写真が紹介されています（2009 年 3 月 1 日～ 5 月 31 日展示「安治川・木津川歴史散策」）。

『大阪近代歌舞伎年表』第 9 巻の附録に、「大阪市劇場史略図」という、便利な参考図があります。それを見ると、もとは明治 5 年（1872）に新築落成した松島文楽座であったのですが、幾度か名称が変わり（その間に文楽座は御霊神社の方へ移転します）、明治 22 年に松島八千代座となりました。明治 33 年に改築したのですが、翌年焼失し、同じ年に再建されました。そのあと昭和 18 年に松島八千代劇場と改称したものの、昭和 20 年の第一次大空襲で焼失してしまいました。

写真の左端に花園橋の親柱が立っています。花園橋は昭和 5 年に架け替えられていますので、この写真は昭和 5 年以後とわかります。また、画面中央にある垂れ幕は「浪花劇団」と読めます。そこで『大阪近代歌舞伎年表』で昭和 5 年以後の、松島八千代座での公演記録を調べると、昭和 6 年 2 月に浪花劇団の公演したことがわかりました。これ以後、八千代座での公演記録はないので、この写真が昭和 6 年 2 月頃に撮られたことは間違いないと考えられます。当時の松島およびそれに続く九条（西の心斎橋と呼ばれていました）の繁栄ぶりがうかがえます。

（堀田暁生）

★大阪市史編纂所では、ホームページを開設し市域の歴史に関する情報を発信しています。
http://www.oml.city.osaka.jp/hensansho/　または　大阪市史　検索　からご覧ください。
今日、大阪でどんな出来事があったかを知る「今日は何の日」、催し物や刊行物を紹介する「おしらせ」、「みんなの質問」では、全国の図書館に寄せられた「おおさか」に関する質問と回答を掲載しています。

編纂所だよりは３月と９月の年２回発行し、次の大阪市の施設等で配っています。大阪市の各区役所、各区民センター、市役所市民情報プラザ、大阪市市民サービスコーナー（梅田・難波・天王寺）、総合生涯学習センター及び各市民学習センター、大阪歴史博物館、大阪城天守閣、住まいのミュージアムにておよそ１ヶ月間設置します。大阪市立中央図書館（3 階大阪コーナー）及び各区図書館では最新号を常備していますので、カウンターでおたずねください。　（平成 25 年９月発行）